

青谿書院についての漢詩二 令和六年三月二日

池田草庵先生に学ぶ会

担当(梅井、高木、藤原、哲彦、

宮崎、俊彦、左起子、繁子)

感遇

背山築茅茨、
臨谿開戸牖、
繚繞一蒼嶺、
突兀兩三峰、
庭際列朱櫻、
門側倚翠松、
垂柳猶未移、
新竹稍作叢、
古畫數幅掛、
聖典幾帙重、
生事苟自足、
山厨非屢空、
因茲忘憂勞、
聊亦慰孤衷、
自古繁有徒、
窮豈獨吾躬、
茫々千年間、
悠々天壤中、
物性固多端、
崇尚或不同、
終是孰良圖、
敢問亡是公

山を背に茅葺きを築き
谿に臨んで戸牖を開く
繚繞として一蒼嶺
突兀として兩三峰
庭際に朱櫻列をなし
門側に翠松よりかかり
垂柳は猶未だ移らず
新竹は稍叢を作す
古畫を數幅掛け
聖典は幾帙にも重ね
生事は苟も自足し
山厨は屢も空にあらず
因つて茲で憂勞を忘れ
聊か亦孤衷を慰め
古より繁し徒あり
窮りて豈に獨り吾が躬ならんや
茫々として千年間
悠々として天壤中
物性は固より多端
崇尚或いは同じからず
終いに是れ孰れが良圖か
敢えて問う亡是公に

山を後ろに茅葺きの家を築く
溪に面して入り口や窓を開ける
回りを取りまく青い嶺
高くそびえる二、三の嶺
庭際には列をなす朱桜
門によりかかっている緑の松
しだれ柳はまだ変わらない
新しい竹は少し群生している
古い絵の掛け軸を数点かけ
聖人の書物は何冊も積み重ね
くらしはとりあえず足りている
台所は少しも空になることはない
そこでここでは憂いを忘れ
少しは一人のさみしさを慰め
昔から多くの仲間があつた
どうして私一人の身であらうか
はるかな何年もの間
ゆうゆうとした天地
人の本性はもとよりいろいろだ
大事にする物は同じではない
結局の所いづれがよいのか
あえて問うみよう亡是公に

又

生年四十強
未與知己逢、
故紙作老蠹、
筆硯事彫蟲、
滴瀝陰崖雨、
蕭颼殘夜風、
平生行藏意、
一擲酒杯中

又

生年四十強
未だ知己と逢わず
故紙は老蠹を作し
筆硯は彫蟲事をなし
滴瀝陰崖の雨
蕭颼殘夜の風
平生行藏を意う
一擲酒杯の中に

生まれてから四十年を越え
未だ自分を知る人と逢えずにいる
ほごした紙は虫がたかり
筆硯は虫が掘つたよう
水がしたたり落ちる日影の崖の雨
物寂しく夜も続いている風
平素の自分のあり方が思われる
思いを一気にさかづきの中に

言葉

感遇

感遇Ⅱ 自分の境遇について考える 茅茨Ⅱボウシ 茅葺きの家
戸牖Ⅱコユウ 入り口 繚繞 リョウジョウ まつわりめぐる
突兀Ⅱトツコツ 山・家が高く突き出ている 列Ⅱつらなる
倚Ⅱヨル よりかかる 翠Ⅱスイシヨウ 青々とした松
移Ⅱうつる ずれて動く 色が変わる 稍Ⅱヤヤ 少しようやく
叢Ⅱソウ 草むら 聖典Ⅱ聖人の書き残した書物
帙Ⅱチツ 書物 厨Ⅱチュウ 料理場
生事Ⅱくらし 生活 苟カリソメニモ とりあえず
屢Ⅱしばしば 因Ⅱヨリテ そこで
茲Ⅱここ ますます 憂勞Ⅱ心配して心悩ます
孤衷Ⅱコチュウ 一人で抱える苦しみや思い
繁Ⅱシゲシ 多い 忙しい ともがら 仲間 弟子
窮Ⅱきわまる 豈Ⅱアニ：ナランヤ 躬Ⅱミ 体
茫々Ⅱ広々としてはるかなさま 天壤Ⅱ天と地
悠々Ⅱ長くゆったりと続くさま 天壤Ⅱ天と地
物性Ⅱ本性 固Ⅱもとより 多端Ⅱタタン 事がたくさん
崇尚スウシヨウ ソウシヨウ 崇めるところとぶ
終Ⅱついに 孰Ⅱいずれか 圖Ⅱズ ト はかりごと
敢問Ⅱカンモン あえて問う 亡是公Ⅱ架空の人物

又

又 くわえて

生年Ⅱ生まれてから経過した年月
知己Ⅱチコ 自分の事を理解してくれる人
故紙Ⅱコシ 反古紙 蠹Ⅱト きくい虫
蟲Ⅱ虫むし 彫蟲 虫の蝕するように掘る
滴瀝しずくがたまるさま 陰崖Ⅱ日の当たらない崖 陰崖
蕭Ⅱシヨウ ものさびしい
颼Ⅱシユウ 風のふくさま 残夜明け方
平生Ⅱ普段 行藏Ⅱコウゾウ 出処進退
意Ⅱ思い 思う
一擲Ⅱイツテキ 一辺になげつける 杯Ⅱさかすせき

又

丘壑閑生涯
終生守幽獨
嗜茶不嗜酒
喫菜却嫌肉
林間或友鹿
堂前頗愛竹
默々更何意
窮達不問ト

又

丘壑^{きゆうがく}で閑の生涯を
終生^{しうしやう}幽獨^{ゆうどく}を守る
茶^たを嗜^{しな}み酒を嗜^{しな}まず
菜を喫^{くら}い却^{かえ}つて肉を嫌う
林間に或^{ある}いは鹿を友にし
堂前の頗^{すこ}ぶる竹を愛で
默々^{もくさく}として更^{さら}に何の意か
窮達^{きゆうたつ}はトを問^{もん}わず

又

隠れ家はいつまでも静か
終生一人で生活する
茶を嗜み酒を嗜まず
野菜を食べ肉を嫌う
山林では鹿を友とし
家の前の勢いのよい竹を愛で
默々として更^{さら}に何を望むか
運命は占^{うらな}つて分かるものではない

言葉

丘壑^{きゆうがく}^二キユウガク 隠者の住まい
隠棲^{いんせい}インセイに適した、俗世間を離れた所。
幽獨^{ゆうどく}^二一人で静かにいる
喫^{くら}飲^のむ 却^{かえ}^二カエツテ 反対に
頗^{すこ}^二カタヨル よほど
默々^{もくさく}^二ものを言わない様 ひっそりとした様
窮達^{きゆうたつ}^二運命、栄達と困窮 ト^二ボクする 表面に出た
手掛かり 事前に予知する